

漢字指導は他の学習領域を侵さない

まえにも言いましたが、石井方式・漢字教育は、幼稚園の従来の学習領域を侵すものではありません。もし侵しているとしたら、それは石井方式ではありません。

大阪市を中心に始められたこの教育は、すでに一年以上経過しています。この漢字教育によって、他の学習領域が活発になり、効果が以前より上がっている、という報告が、私の所にたくさんきています。

中には、漢字教育に負担を感じている、他の領域の学習を侵している、という幼稚園もないではありません。しかしそれは、石井方式を正しく理解しておらず、正しく実施していないためで、正しく行なえば、絶対にそういうことはなくなります。

“漢字を教える”のではなく、“漢字で教える”のですから、幼児のあらゆる学習活動の中で行なわれるべきものです。漢字が学習の直接の目標にならないように、漢字が“それとなく”使われる、というのが理想的です。幼児たちが、漢字学習をしているとは全く感じられないよう

な学習が良いのです。

まず初めに私が行なったのは、幼児たちが“物語を聞く”学習であったわけです。幼児たちは、私の語る物語を静かに聞き、そのあらすじがわかれば、それでこの学習の目的は果たされることになります。その“聞く”学習の中に、“漢字”が時々顔を見せる。幼児たちは、それをひとりでに(覚えようという意識をもっていないのに)覚えてしまうのです。

幼児たちが漢字を覚えたことによって、“聞く”学習が、何か失われたのでしょうか。失われるどころか、“聞く”学習の効果は時々見せられる漢字によって高められました。

黒板に書き並べられた漢字は、話が終わってもまだ残っていて、物語の展開のあとを子供たちに語りかけていました。漢字を見ることによって、物語の記憶が確められ、整理されました。